

ROSETTE®

**取扱説明書**

## *Greetings from the Home of Tone®*

MESA/BOOGIEのアンプを選択されたあなたは、とても賢明なプレーヤーであり、且つ直感に優れた方です。それと同時に、アンプメーカーとしての我々に絶大な信頼を抱いているということですね。我々は、その期待を重く受け止めています。このアンプを選択して購入されたということは、このアンプがあなたの音楽を表現する体の一部になったという事であり、同時にあなたはMESAファミリーの一員になったのです。ようこそ！

我々の目指すゴールは、決してあなたを幻滅させる事はありません。偉大なアンプのオーナーになった今、MESAの先人達が築き上げてきた様々な真空管アンプの伝統、そしてその上に新たに積み上げられた技術の全てをあなたは享受できるのです。これから、このアンプがあなたの音楽制作を触発し、多くの喜びを与えてくれる事は間違いありません。それは、これまで培ってきたあなたの奥底に眠る音楽に対する意欲や情熱を導き出す事であり、我々はその手助けが出来ればと願っています。・・・私達の新たな友へ捧げます。

# 目次

使用上の注意

INTRODUCTION / OVERVIEW / 簡単なヒント \_\_\_\_\_ 1-5

## フロントパネル

CHANNEL 1 INPUT SELECT スイッチ _____	5
MICROPHONE INPUT ジャック _____	5-6
PHANTOM POWER LED _____	6
PICKUP INPUT ジャック _____	6
MUTE スイッチ _____	6
PHASE スイッチ _____	6
HI-PASS FILTER _____	6
GAIN コントロール & CLIP LED _____	6
FX SEND _____	7
BASS コントロール _____	7
LOW MID & HIGH MID コントロール _____	7
TREBLE コントロール _____	7
FX MASTER _____	7
MASTER _____	7
EFFECTS PROGRAM _____	7
PARAMETER コントロール _____	8
REVERB + CHORUS _____	8
ROOM REVERB _____	8
HALL REVERB _____	8
EFFECTS BYPASS LED _____	8
POWER/PROTECT/LIMIT LED _____	8

## リアパネル

POWER スイッチ _____	9
AC 電源コネクタ _____	9
SPEAKER OUTPUT _____	9
TWEETER LEVEL SWITCH _____	9
HEADPHONE OUTPUT _____	9-10
MUTE FOOTSWITCH ジャック _____	10
FX BYPASS FOOTSWITCH ジャック _____	10
EFFECTS SEND & RETURN _____	10
AUX INPUT _____	10
DIRECT OUTPUTS (DI OUTS) _____	10
DIRECT OUTPUT SOURCE スイッチ _____	10
DIRECT OUTPUT LEVEL スイッチ _____	11
DI OUTPUT PIN 1 LEFT スイッチ _____	11
トラブルシューティング _____	12-13
開発チームからのアンプとCLASS Dについてのディスカッション _____	14-15
USER SETTINGS _____	16
TWIST-LIFT ADJUSTMENT _____	17
TECHNICAL SPECIFICATIONS _____	18
SERVICE INFORMATION _____	19
BLOCK DIAGRAM _____	20
PARTS DIAGRAM _____	21

## 使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従って設置して下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発生する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは2つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意：安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意：必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogieアンプはプロスベック用の機材ですので、規定に従って扱って下さい。

**上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!**

# ROSETTE®

## 取扱説明書

### Introduction:

ROSETTE®シリーズ アコースティックアンプをご購入いただきありがとうございます。そしてMESA/Boogie®ファミリーへようこそ！まず、あなたが音楽を表現し創造するために、アンプメーカーとしての我々を信頼してこの製品をお選びいただきありがとうございます。これは決して当たり前のことではなく、もしアンプのことで助けが必要であれば我々はいつでもあなたの力になる準備ができています。我々の目指すゴールは、あなたが常にベストなサウンドを奏でることなのです。あなたの新しいアンプが、信頼に値するサービスとインスピレーションをあなたにもたらし、音楽を表現するための新たな自由を生み出すと確信しています。

素晴らしいレガシーから生まれたこのアンプは、我々の受け継いできた音に対する証とも言えるモデルです。その元祖は、これまでに製造されたMESA®アンプの一番最初となったオリジナルのFender® Princetonギターアンプのモディファイ品に遡ります。そしてその後、イギリスのDave Masonのために製作された、ハンドメイドによる完全MESAオリジナルのギターアンプ初号機Boogie® 130 Lead、Carlos Santanaの最初のMark I Boogieと続きます。実際、3000台を超えるアンプをラグニタス山の山小屋で製造していたのです！

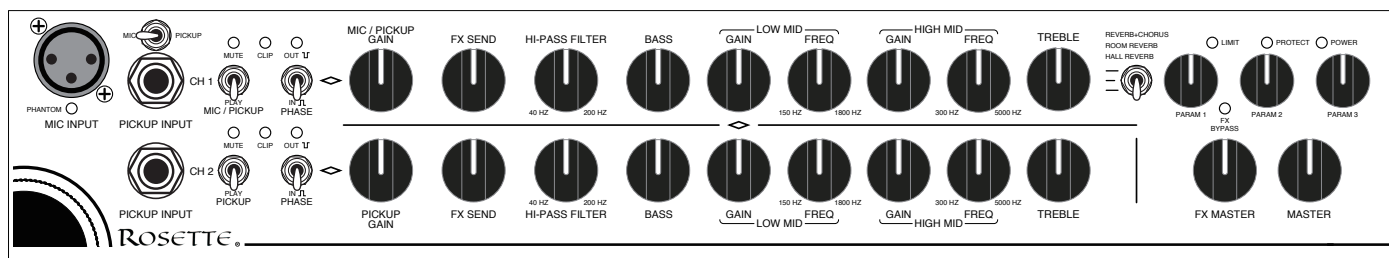
Mark I、Mark IIおよびそれ以降のモデルについても、世界で最も才能のあるギタリストの何人かによって40年以上にわたって使用されるようになりました。Al DiMeola、Bruce Springsteen、Charlie Hunter、Bob Weir、Mike Einziger、そしてTaj Majalらは、これらのアンプを使用している数少ない世界的なスターです。そして、これらの象徴的なアンプは中古市場でいまだ高値で取引がされています。

何年にもわたり、エレキギターアンプをアコースティック楽器に特化したモデルにカスタマイズしてほしいという多くのリクエストをいただきました。また、アコースティック用のセットや演奏に対応するために、アコースティックプリアンプ(オンボードまたはペダル)をエレキギターアンプのエフェクトリターンに接続したいというプレイヤーもいました。そこでMesa Boogieがどんなアコースティック楽器用のアンプもたらしることができるかを協議して、R&Dチームは研究開発プログラムに着手しました。そしてこれらの努力の末にRosetteは完成したのです。

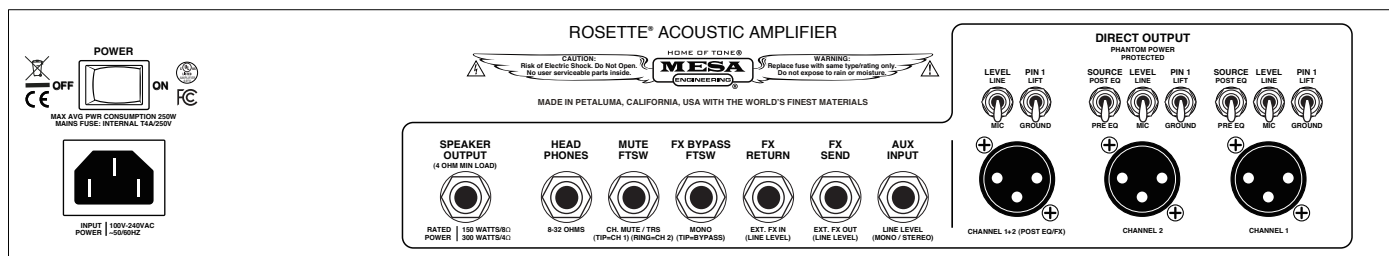
ROSETTE™のラインナップは、アコースティックギターだけでなく、マンドリン、ウクレレ、バイオリン/フィドル、ダルシマー、チェロ、アップライトベース、その他ユニークなアコースティック楽器用に設計されたアコースティック楽器専用のプラットフォームです。アンプには、プロフェッショナルなプレイヤーに適した豊富な機能だけでなく、スタジオクオリティのDI、ナチュラルなサウンドアルゴリズムを備えたDSPのリバース/コーラス(パラメーターの調整が可能)、およびローノイズのマイクプリアンプ回路も備えています。

Rosette Acousticシリーズは、MESA/Boogieアンプの血統の次なるステップです。コンパクトで軽量ながら強力なトーンを生み出すこのアンプは、40年以上前にラグニタス山の山小屋からスタートしたレガシーを継承し、必要とされる機能やコントロールがパッケージングされています。全てのRosetteアンプは、アメリカ カリフォルニア州ベタルマで世界最高級の素材でハンドメイドされています。

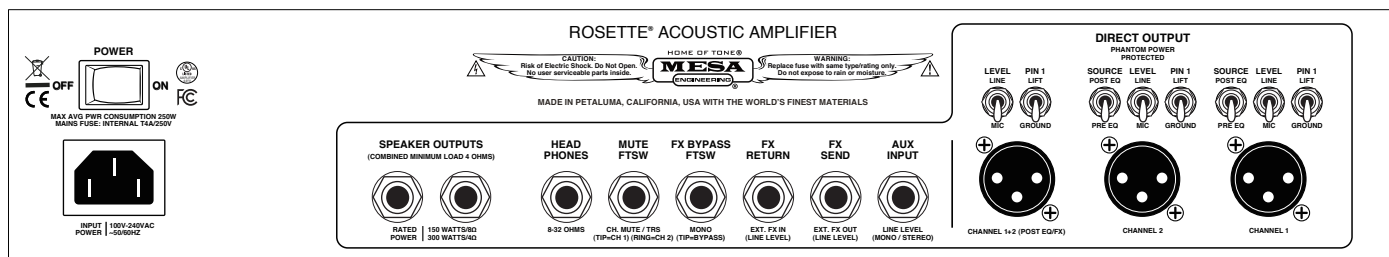
## フロントパネル: ROSETTE® 300 / Two:Eight & One:Ten



## リアパネル: ROSETTE® 300 / Two:Eight



## リアパネル: ROSETTE® 300 / One:Ten



## OVERVIEW: フロントパネル

Rosetteを製作する上での基本的な哲学は、機能、回路および高品質な構造の組み合わせによって、細心の注意を払ってアコースティック楽器の音色を正確に再現することでした。プリアンプのアプローチは、ハイエンド・レコーディングとライブ・オーディオコンソールの設計をベースにしており、簡単に設定が可能な機能とレイアウトを備えています。

ROSETTE®はフロントパネルのインプットセクションから始まり、2つの別々のチャンネル、“CHANNEL 1” (上段)と“CHANNEL 2” (下段)で構成されています。CHANNEL 1にはマイクインプットとピックアップインプットがあり、CHANNEL 2にはピックアップインプットのみを備えています。

CHANNEL 1は、MIC INPUT端子、PICKUP INPUT端子、MIC-PICKUPセレクタースイッチ、CLIP LED、MUTEスイッチ(フットスイッチでコントロール可能)、PHASEスイッチで構成されています。MIC INPUTは、ダイナミックマイクとコンデンサーマイクの両方でシームレスに動作する、ハイダイナミックレンジ(ファンタム電源とインジケータLEDを含む)のバイポーラ・ローノイズプリアンプです。PICKUP INPUTは、ハイインピーダンスで広帯域幅のローノイズFETプリアンプで、すべてのピックアップに適切なゲインと負荷を提供します。CHANNEL 2は、MIC INPUTを除いてCHANNEL 1と同じです。

MUTEスイッチは、全てのアウトプットへの信号を無音にしてサイレントチューニングを可能にします。PHASEスイッチは、信号の位相を反転させることでフィードバックを減らすのに役立ちます。インジケータLEDは全てのスイッチごとに搭載されています。各チャンネルには

不要なサブソニックや低周波信号をブロックすることができる可変タイプのHIGH PASS FILTER、赤いCLIP LEDインジケーターも搭載したGAIN コントロール、オンボードDSPエフェクト(リバーブ/コーラス)またはEFFECTS SEND端子(オンボードエフェクトを使用していない場合)のいずれかに信号を送信するEFFECTS SENDコントロールを備えています。

トーンシェイピングには、LOW、LOW MID、HIGH MID、HIGHで構成された4バンド・イコライザーセクションがあり、両方のミッドレンジの帯域で周波数をスイープコントロールすることが可能です。

最後に、アウトプットにミックスされるエフェクトの量を調整するMASTER EFFECTSコントロールと、アンプの全体の音量を設定するMASTER VOLUMEコントロールを備えたマスターセクションがあります。このアンプのデジタルエフェクトプロセッサは、2種の別々のリバーブ、リバーブ+コーラスのレイヤープログラム、そして各エフェクトの3つのパラメーターコントロール(タイム、レート、フィルターもしくはミックス)を備えているという点でアコースティックアンプの中でもユニークな仕上がりになっています。

## OVERVIEW: リアパネル

リアパネルには、POWERスイッチと標準のIEC “C14” コネクタタイプのAC MAINインレットがあります。ROSETTE®は、AC 100-120 V、220-240 V/50/60 Hzの範囲で自動調整されるユニバーサル電源対応です。この機能は、世界各地の様々な電源環境で演奏するようなツアーミュージシャンに最適です。唯一必要なものは、各国の電源環境にマッチした電源ケーブルだけです。

ROSETTE®は2x8インチと1x10インチのコンボタイプで、2x8インチコンボは4Ω仕様でSPEAKER OUTPUTを1個、1 x 10インチコンボは8Ω仕様でSPEAKER OUTPUTを2個備えており、1x10インチコンボについては外部スピーカーへの拡張接続が可能な唯一のモデルとなります。内蔵スピーカーは付属のケーブルでアンプに直接接続します。このアンプは、2x8インチコンボの内蔵スピーカーで300W RMS、1x10インチコンボの内蔵スピーカーでは150W RMSの実効値となります。さらに1x10インチコンボでは、150W RMSの外部8Ωスピーカーに接続して合計300W RMSの出力を得られます。いかなる状況においても、端子をグラウンドに接地させたりスピーカー以外の機器に接続したりしないでください。

練習などの用途で使用できるHEADPHONE OUTPUTを備えており、必要に応じてAUX INPUT端子に音源を接続して出力することも可能です。スピーカーからの出力を消音するには単にスピーカーケーブルをSPEAKER OUTPUT端子から外すだけで、特別な操作や機器は必要ありません。他にMUTE FOOTSWITCH端子(チャンネル1、チャンネル2、または両チャンネルをミュートするための2ボタンのラッチタイプのフットスイッチを接続)、エフェクトをミュートするためのEFFECTS BYPASS FOOTSWITCH端子(1ボタンのラッチタイプのフットスイッチを接続)、オンボードエフェクトに代わって外部エフェクトを接続して使用するSEND/RETURN端子も備えています。

PRE-POST EQスイッチ、MIC / LINE LEVELスイッチ、そしてピン1 をリフトするGROUND LIFTスイッチを備えた、3系統のスタジオグレードのXLRバランスタイプのDIRECT OUTPUT端子は、他には類のないROSETTE®アンプの特化した機能です。また、これらのアウトプットはファンタム電源から保護されています。

### 簡単なヒント

ROSETTE®は優れたサウンドを簡単に得られるアンプです。基本的には“プラグアンドプレイ(細かな設定が不要ですぐに使用できる)”アンプですが、アンプの機能とコントロールに慣れるにつれて本格的に楽しんでいただけます。

まずはCHANNEL 2(下側のチャンネル)を使用するところからスタートします。MUTEスイッチを下側(MUTE OFF)、PHASEスイッチを下側(IN PHASE)、HIGH PASS FILTERを10:00のポジションに、4つのEQコントロール(BASS、LOW MID GAIN、HIGH MID GAIN、TREBLE)を12:00の“フラット”の位置に設定します(MID GAINが“フラット”設定時はMID FREQUENCYコントロールのポジションは影響を及ぼしません)。MASTER VOLUMEコントロールについては1:00のポジションに設定してください。次に、ギターをCHANNEL 2のPICKUP INPUTに接続し、任意の音量になるまでPICKUP GAINコントロールを上げます。そして、EFFECTS PARAMATERコントロールを反時計回りいっぱい回してエフェクトプログラムを選択したら、EFFECTS MASTERコントロールを1:00のポジションに設定し、CHANNEL 2のFX SENDコントロールを時計回り方向に徐々に回して全体的なサウンドにエフェクトを追加します。最後に、EQコントロールとEFFECTS PARAMETERコントロールをお好みに合わせて微調整するだけです。



## アコースティック楽器のフィードバック制御のためのヒント

スピーカーから出力された音が楽器のボディを振動させ、アンプがこの振動を再増幅することでフィードバックが発生しますが、増幅はどんどん大きくなり、“離脱する”まで何度も再増幅されます。これがフィードバック“ループ”と呼ばれる理由です。フィードバックを減らすにはいくつかの方法があります。

1. 1つ目の方法は、楽器とスピーカー間の距離を長く置くことによって、楽器のボディが及ぼすスピーカーへの影響を減らすことです。スピーカーからの音が楽器のサウンドボードにダイレクトに当たらないように、スピーカーとは逆の方向に楽器の向きを変えてください。
2. 2つ目の方法は、信号の位相(極性)を反転させることです。これにより、フィードバックが発生する可能性がある周波数に対する感度が変わります。この変化が楽器本体の固有共振周波数と大きく異なる場合、フィードバックの可能性は減少します。
3. 3つ目の方法は、HIGH PASS FILTER(高域を通過させ低域をカットするフィルター)を可変させることです。これは、楽器のボディを振動させる低周波の量を減らすことによって、非常に低い周波数帯におけるフィードバックの可能性を減少させます。このテクニックは、ボディが深いドレッドノートやアップライトベース、チェロなどにおいて特に役立ちます。このコントロールを時計回りに回すと、カットオフ周波数が上がり低域の成分が少なくなります。音量を大きくするときは、音の明瞭さを保つためにカットオフ周波数を上げることが望ましい場合がよくあります。
4. 4つ目の方法は、特定の周波数帯域の成分をEQで減らしてその帯域のフィードバック傾向を減少させることです。このフィードバックは楽器のボディの空洞共鳴によって悪化することがしばしばあるので、多くの場合LOW MIDコントロールの調整によって簡単に対応することができます。LOW MID GAINコントロールを3:00のポジションに設定して、LOW MID FREQUENCYコントロールを時計回りいっぱい回しながら、演奏しながらゲインコントロールをフィードバックが発生するレベルより少し下に設定します。ここでLOW MID FREQUENCYコントロールを反時計回りにゆっくりと回すと、フィードバックの始まりの共鳴特性が聴こえるはずですが、LOW MID GAINコントロールを10:00くらいのポジションに下げると、共鳴音はほとんど消えることでしょう。この時点からLOW MID FREQUENCYコントロールを前後に回転させて微調整すると、最も効果的な場所が見つかるはずですが、この周波数帯をもう少しカットする必要がある場合は、LOW MID GAINコントロールをもう少し反時計回りに回します。BASSコントロールは、LOW MIDコントロールの下側の周波数範囲と重なっているため、LOW MIDで150Hz以下をカットしている場合は、BASSコントロールも少し下げてください。

ROSETTE®では、一般的でシンプルな2バンドもしくは3バンドの固定周波数タイプや、1系統だけミッドの周波数を可変可能な3バンドタイプではなく、周波数を可変させられる2系統のMIDSコントロールを備えたより強力な4バンドEQを搭載しています。カットモードでスイープタイプのミッドバンドをコントロールした場合、固定されたノッチのデプスに制限されていない点を除いて、ノッチフィルターと同様に扱うことができます。カットモードではノッチのデプスは0dB~12dBを超えて変化するので、必要な分だけをコントロールすればよいということです(さらにEQを追加するためにはミッドバンドを残す必要があります)。フィードバックが問題にならなければ両方のバンドをEQ用に使用可能なので(ブーストを含む)、これはあらゆるアコースティックアンプにおける最も強力なEQなのです。

## イコライザー(EQ)の効果的な設定のためのヒント

イコライザーを使用するということは、簡単に言ってしまえば周波数帯域内の音響成分(信号レベルまたは音量)を増減できるということです。イコライジングを行う最初の目的としては、楽器(およびスピーカーシステムと一緒にそのピックアップシステム)のトーンのバランスを取り、音響空間やバンド演奏のミックスにフィットするようにすることです。EQの各バンドは、楽器の周波数範囲の一部にそれぞれ対応しています。2系統のミッドレンジバンドは、必要に応じて周波数コントロールを最適な周波数ポジションに設定することができます。

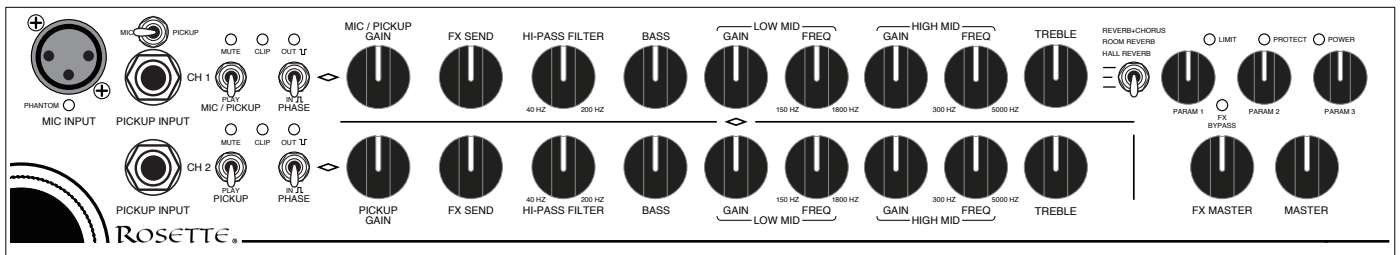
2つ目の目的は、全体の音量が大きい場合に発生する可能性があるフィードバックの可能性を減らすことです。スピーカーから出力される音響成分を楽器がピックアップして再増幅する現象がエンドレスでループされるのがフィードバックの定義です。(上記“フィードバック制御のためのヒント”内EQの使用に関するセクションをご参照ください。)

1. BASSコントロールは、低い周波数(ベース)をブーストまたはカットするためのコントロールです。12:00のポジション(“フラット”=ブーストもカットもされていない状態)から時計回り方向に回せばベースをブーストし、反時計回りに回せばベースをカットします。一般的に、音量が低い状態でベースをブーストすると深く豊かなサウンドの傾向になりますが、音量が高い状態でベースを少しカットすると明瞭さを保ち、低い周波数帯でのフィードバックの可能性を減らせるケースがあります。



2. LOW MID/HIGH MIDセクションは、それぞれGAINとFREQUENCYの2種類のコントロールで構成されています。LOW/HIGH MID GAINコントロールは、LOW/HIGH MID FREQUENCYコントロールで設定した周波数を中心にロー/ハイミッドレンジをカットまたはブーストします。ローミッドの帯域では粘り感や暖かみ、唸るような低音、こもったようなトーンキャラクター、ハイミッドの帯域ではアタック感や鋭さ、バイト感のあるキャラクターをコントロールします。一般的には、望ましくないトーンをカットすることでより良い結果が得られます。
3. TREBLEコントロールは、高い周波数(トレブル)をブーストまたはカットするためのコントロールです。12:00のポジションから時計回り方向に回せばトレブルをブーストし、反時計回りに回せばカットします。一般的に、音量が低い状態でトレブルを少し上げると明るくオープンなサウンドの傾向となりますが、音量が大きい状態でトレブルを少しカットすると、耳障りなトーンを抑えます。バンドミックスの状況では、やや明るいトーンの方がマッチしやすく、楽器のトーンを際立たせます。
  - a. MIDレンジEQの簡単な設定方法です。まず、LOW MID GAINコントロールを3:00のポジションに、LOW MID FREQUENCYコントロールを時計回りにいっぱい回して、演奏しながらフィードバックが発生するレベル以下にゲインコントロールを設定します。サウンドを確認しながらLOW MID FREQUENCYコントロールを反時計回りにゆっくりと回転させて、望ましくないサウンドや楽器のナチュラルなサウンドの邪魔になるようなトーンを聴いてみてください。この操作により、前述のネガティブな周波数範囲をすばやく見つけることができます。そのうえで、単純にLOW MID GAINコントロールを下げる(10時のポジションからスタートするのが目安です)ことで、好ましくないトーンはほとんど消えるはずですが、このポイントからLOW MID FREQUENCYコントロールを少し前後に回転させて微調整すると、最も効果的な場所が見つかるでしょう。この周波数帯をもう少しカットする必要がある場合は、LOW MID GAINコントロールをもう少し反時計回りに回します。次に、HIGH MIDセクションでも上記と同様の操作を繰り返してください。この設定方法にはいくらか練習が必要かもしれませんが、慣れるにしたがってより良い結果を生むことでしょう。
  - b. スタートとしては、LOW/HIGH MID GAINコントロールを10:00のポジション付近に設定し、LOW/HIGH MID FREQUENCYコントロールを10:30~2:30までの範囲で設定するのが良いでしょう。
  - c. 音量が大きい場合では、最も自然なサウンドを得るためにさらにカットして微調整が必要になることがあります。

## フロントパネル(コントロールと機能)



### CHANNEL 1 INPUT SELECT スイッチ

このスイッチは、チャンネル1のXLR MIC INPUTと $\frac{1}{4}$ "(6.35 mm) PICKUP INPUTのどちらかを選択します。マイクインプットでファンタム電源が有効になっている場合、PICKUP INPUTが選択されているとPHANTOM POWER LEDが消灯します。

### MICROPHONE INPUT ジャック

INPUT SELECTスイッチが“MIC”側の設定のときには、この端子からマイクのプリアンプに信号が送られます。マイクプリアンプは、ディスクリットでローノイズのバランス回路を採用しています。MICROPHONE INPUTは、DIN P-12ファンタム電源を供給しますが、これはライブサウンドの業界においてほとんどのマイクロホンにマッチします。より高い電圧が必要な場合(DIN P-48など)、入力に合わせて外部ファンタム電源を使用することもできます。マイクの接続や取り外し時のポップ音が内蔵スピーカーやDIアウトに送られないように、都度MIC GAINコントロールを下げてチャンネルをミュートすることをお勧めします。

## PHANTOM POWER LED

このLEDは、INPUT SELECTスイッチでMIC INPUTが選択されている際に、MIC INPUTにファンタム電源が供給されていることを示します。ファンタム電源は、アンプシャーシ内部、マイクジャックの後ろ側にあるディップスイッチJ2でON/OFF切替が可能で、わかりやすいようにラベリングされています。接続可能なほとんどのアプリケーションにおいては、インターネットの知識や都市伝説のような話にかかわらず、ファンタムパワーが悪影響を及ぼすことはありません。工場出荷時はファンタム電源はONに設定されています。ファンタム電源において唯一注意すべき点としては、特定のリボンマイク(メーカーへの確認が必要ですが、過去10年間に導入された多くのものは問題なく使用することが可能で、ファンタム電源が必要なものもあります)とケーブルのトラブル、特に少数存在する構造的にダメージを受けやすいマイクとの組み合わせで使用したときのみ発生します。

## PICKUP INPUT ジャック

このジャックは、PICKUP INPUTのモノリシックJFETのインプットステージに信号を供給します。このインプットのインピーダンスと感度は、全ての一般的なピックアップと互換性があります。プラグの抜き差しを行うときは必ずPICKUP GAINコントロールをゼロにしてチャンネルをミュートし、内部スピーカーやD.Iアウトからポップノイズが発生しないようにすることをお勧めします。

## MUTE スイッチ

このスイッチは、それぞれのチャンネルのDIRECT OUTPUT、HEADPHONE OUTPUT、SPEAKER OUTPUTへ送られるオーディオ信号をミュートし、チューナーを接続している場合にはサイレントチューニングを可能にします。スイッチが上側のポジションのときは、DIRECT OUTPUTジャック、HEADPHONE OUTPUTジャック、SPEAKER OUTPUTジャックからサウンドは出力されません。このスイッチを使用すれば、コントロールを調整することなく指定のチャンネルだけをスタンバイモードにしたり、コントロールを動かすことなく接続機材を差し替えることもできます。

**NOTE:** MUTE機能は、標準的なTip-to-GroundタイプのラッチングON/OFFスイッチをリアパネルのMUTE FTSWジャックに接続して、リモートコントロールすることも可能です。リモートコントロールを有効にするには、フロントパネルのMUTEスイッチを下側のPLAYポジションに設定してください。

## PHASE スイッチ

このスイッチは、スピーカーアウトプットを含む全ての出力端子に対して各チャンネルのPHASE(極性)を設定します。フィードバックを抑えるためにイコライザーを使用する前に、フィードバックが発生しにくい側のポジションにスイッチを設定してください。ピックアップとマイクの両方を使用する際には、必ずPHASEスイッチを切り替えてみてサウンドが最もリッチでフルになる側をご選択ください。使用する楽器のピックアップやマイクの配線に応じて正位相か逆位相のいずれかになりますが、視認できるものではありません。ある特定の条件下では、楽器からの信号とスピーカーからの信号の極性が同じ場合フィードバックが問題になります。

## HI-PASS FILTER

このコントロールは、特に大音量の条件下で、超低域のレスポンスをコントロールする重要な機能です。この可変周波数フィルターは、滑らかな低周波数ロールオフ特性で40Hz~200Hzの範囲でスイープ可能です。ハイパスフィルターは、プロオーディオ業界では長きにわたって標準的なものですが、ここ数年でアコースティック楽器やベース・アンプでも見られるようになりました。この可変タイプのフィルターは、キャピティアーがより大きなアコースティック楽器(チェロ、マンモ・チェロ、アップライト・ベース、ピオラ、ジャンボ・ギター、一部のドレッドノート・ギターなど)が発生させるサブソニック・ハーモニクスをコントロールするのに効果を発揮します。

## GAIN コントロール & CLIP LED

それぞれのチャンネルのインプットゲインをコントロールします。赤色のCLIP LEDは、ドライブシグナルレベルのステータスと現在プリアンプがどの程度クリッピングしているかを視覚的に表示します。点滅しているときはプリアンプのクリッピングがある可能性があることを示します。クリッピングを解消するにはGAINコントロールを下げますが、これによって下がったボリュームを付加したい場合はMASTER VOLUMEコントロールを少し上げて補正します(マスターボリュームは両方のチャンネルのレベルに影響するため、もう一方のチャンネルについてもGAINを少し下げたチャンネル間のバランスを取ってください)。

## **FX SEND**

このコントロールは、オンボード(内蔵)エフェクトプロセッサに送信される信号のレベルを調節します。通常、MASTER EFFECTS(リターン)コントロールが1:00のポジションに設定されている場合、このEFFECTS SENDコントロールは10:00~3:00の範囲内で設定します。この設定よりもさらにエフェクト効果を深くしたい場合は、このコントロールの設定は変えずにFX MASTERコントロールを上げてください。FX SENDとFX MASTERの両方のコントロールがある理由は、よりたくさんの楽器やピックアップレベル、エフェクトなどに対応することを可能にするためです。

## **BASS コントロール**

信号の低域の周波数の量を決定します。200Hz以下の低音域は、トーンの“丸み”や“充実感”、トーンの“フィール”を担っています。このブースト/カットが可能なアクティブタイプのコントロールは、フラット・ポジション(12:00)から右側に時計回りに回すとブーストされ、左側に反時計回りに回すとカットします。低域の唸りが発生したりトーンがファットすぎると感じた場合にはこのコントロールを少し下げてください。BASS EQコントロールを使用する前に、先にHI PASS FILTERでレスポンスを細かくチューニングすると効果的で、BASS EQとHI-PASS FILTERを組み合わせて使用することでこれらの低域コントロールの1つだけを調整するよりもより顕著な効果が得られる場合が多いでしょう。

## **LOW MID & HIGH MID コントロール**

信号のLOWおよびHIGH MIDRANGE周波数の量を決定します。LOW MID周波数(150Hz~1800Hzの間で調整可能)は、粘り感や暖かみといったトーンキャラクターに影響し、HIGH MID周波数(300Hz~5000Hzの間で調整可能)は、エッジ感、アタックまたはバイト感といったトーンキャラクターに影響します。このコントロールはブースト/カットが可能なLOW MID GAINとHIGH MID GAINを伴うアクティブタイプのコントロールで、GAINコントロールをフラット・ポジション(12:00)から右側に時計回りに回すとブーストされ、左側に反時計回りに回すとカットします。これらのGAINコントロールが作用する周波数範囲は、LOW MID FREQとHIGH MID FREQコントロールによって設定します。GAINコントロールがフラット(12:00)ポジションの状態だと、そのバンドにおいてカット/ブーストが行われていないためFREQコントロールをスイープしても変化はありません。

## **TREBLE コントロール**

信号の高域の周波数の量を決定します。5000Hz以上の周波数帯域に対応しており、これらはサウンドの明るさやエア感、きらめき感といったトーンキャラクターを担っています。このブースト/カットが可能なアクティブタイプのコントロールは、フラット・ポジション(12:00)から右側に時計回りに回すとブーストされ、左側に反時計回りに回すとカットします。サウンドが明るすぎたり、エッジが効きすぎていると感じる場合は、このコントロールを少し下げてください。

## **FX MASTER**

このコントロールは、オンボード(または使用している場合は外部の)エフェクトプロセッサから送られるエフェクト信号がサウンド全体にミックスされるエフェクトの量を調整します。各チャンネルのFX SENDコントロールが10:00~3:00の範囲内に収まるよう設定することから始めてください。これにより、ノイズフロアとダイナミックレンジの関係性をもっともベストな状態にすることができます。高めに設定することでフィードバックの可能性を高める場合がありますのでご注意ください。

## **MASTER**

アンプ全体のボリュームを決定します。GAINコントロールと最終段のMASTERコントロールを組み合わせることで演奏音量を最適にコントロールすることができます。ノブのポジションが10:00~2:00の範囲内で設定されるのが一般的になります。

## **EFFECTS PROGRAM**

このスイッチで、3つのエフェクト・プログラムを選択します。スイッチを下側のポジションに切り替えるとHALL Reverb、中央のポジションに切り替えるとROOM Reverb、上側のポジションに切り替えると(ROOM) Reverb+CHORUSを組み合わせたエフェクトプログラムが呼び出されます。

## PARAMETER コントロール

EFFECTS PROGRAMスイッチの右側にあるPARAM 1、2、3と表示されている3つの小さなコントロールで、エフェクトプログラム内のパラメーターの調整を行えます。プログラムによって異なる特定の機能については、次の各エフェクトに関する記述を参照してください。

- **REVERB + CHORUS** このプログラムは、ROOM REVERBをCHORUSとレイヤーすることでナチュラルな音響特性で楽器と演奏環境との相互作用を高めることができます。

PARAM 1 : Reverb Mix(ウェット信号とドライ信号のブレンド)  
PARAM 2 : Chorus Rate(モジュレーションのスピード)  
PARAM 3 : Chorus Depth(エフェクト信号とドライ信号のミックス)

- **ROOM REVERB** より小さな音響空間をベースにしており、より短いプリディレイ、ディケイテール、複雑ではない再生アルゴリズムによるイニシャルリフレクションが特徴で、(ホールリバーブと比較して)全体的に少し明るくアグレッシブなサウンドになります。軽めのサステインを加えたり、ギターのサウンドをファットかつウォームにするために使用されています。

PARAM 1 : Reverb Time(ディケイの長さ、空間のサイズ)  
PARAM 2 : Low Pass(High Cut) Filter(ハイカットフィルター)  
PARAM 3 : High Pass(Low Cut) Filter(ローカットフィルター)

- **HALL REVERB** より大きな音響空間をベースにしており、より長いプリディレイ、ディケイテール、複雑な再生アルゴリズムによるイニシャルリフレクションが特徴です。コンサートホールのようなディケイにより少々ダークなサウンドの印象となりますが、反響がデッドな環境において広がりのあるサウンドを演出するために使用されます。

PARAM 1 : Reverb Time(ディケイの長さ、空間のサイズ)  
PARAM 2 : Low Pass(High Cut) Filter(ハイカットフィルター)  
PARAM 3 : High Pass(Low Cut) Filter(ローカットフィルター)

## FX BYPASS(CANCEL) LED

このLEDは、リアパネルのFX MUTEジャックに接続された標準的なラッチタイプ(Tip to Ground)のON/OFFスイッチでの外部コントロールによって、内蔵エフェクトをバイパスした場合に点灯します。この機能は、楽器を耳でチューニングする時やマイクチャンネルを使用して曲間等に話をする際に便利です。

## POWER LED

この青色のLEDは、アンプが電源に接続されておりスイッチがONで正常に動作していることを示します。このLEDが点灯していない場合は、電源を再確認し、電源ケーブルがアンプの電源ソケットから抜けていないか確認してください。

## PROTECT LED

この赤いLEDは、アンプがプロテクトモードに入り、外的な要因(スピーカーケーブルのショートやスピーカーの不具合など)、もしくはアンプ内部の不具合からプロテクションが動作した時に点灯します。アンプから電源ケーブルを除く全てのケーブルを抜くことによって、不具合がアンプの外的要因ではないことを確認します。PROTECT LEDが点灯しなくなった場合は、スピーカーケーブルもしくはスピーカーユニットの不具合の可能性があります。ヘッドフォンのシグナルは、最適化されたエミュレーションネットワークによってパワーアンプ通過後のポイントから出力されるので、ヘッドフォンをセットしてテストすることで問題を絞り込むことができます。

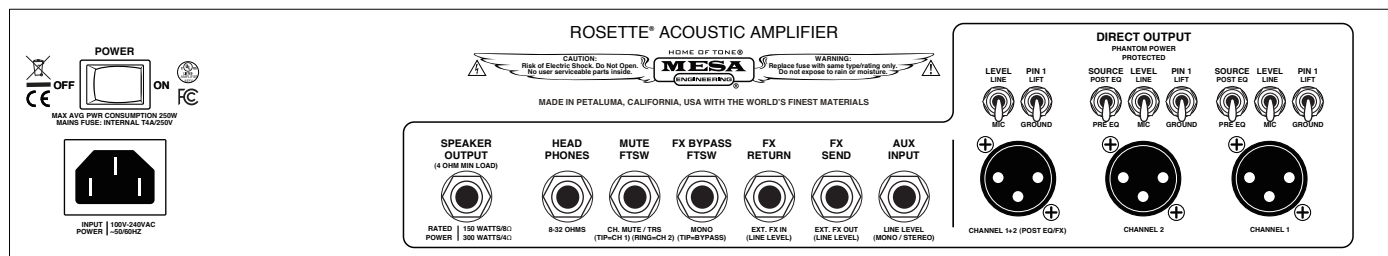
## LIMIT LED

このオレンジ色のLEDは、パワーアンプが最大出力に近づき、ソフトクリップ/リミットモードであることを示します。ソフトクリップ/リミットモードは、一般的なソリッドステートクリッピングの人工的な特性を除去し、チューブアンプのアウトプットステージでのオーバードライブのキャラクターを再現します。このサーキットのレンジは約4dBで、これをオーバーすると徐々にアウトプットステージでのクリッピングが発生します。

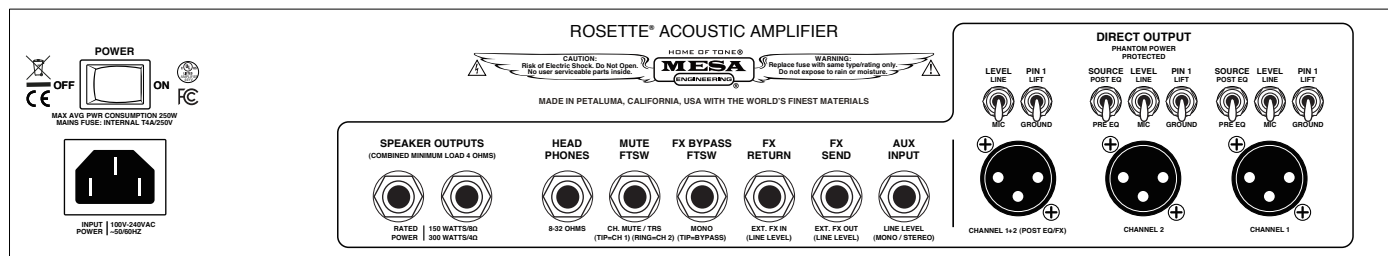


## リアパネル(コントロールと機能)

### リアパネル: ROSETTE® 300 / Two:Eight



### リアパネル: ROSETTE® 300 / One:Ten



#### POWER スイッチ

このスイッチはメインAC電源でアンプの電源をON/OFFします。このアンプは、「0.00ワット消費電力OFFモード」で新しいEU ErP指令に適合した製品です。

#### AC電源コネクタ

この電源インレットはIEC C-14タイプ規格に準拠しており、付属の電源コードがコネクタにぴったりと収まっているか常に確認してください。アンプの保守と保証適応のためには、決して電源ケーブルを改造しないでください。アンプをAC電源に接続するときは、必ずグラウンドに接地されたコンセントを使用してください。

#### SPEAKER OUTPUT

Rosette 300アンプは、4Ωの最小総負荷を駆動するように定格されており、静かな練習やレコーディング用のプリアンプとして使用するときにはスピーカーを接続しなくても安全に動作します。

**2:8モデル** — 2x8インチコンボの内蔵スピーカーシステムの定格は4Ωです。このモデルは内蔵スピーカーと同時に外部スピーカーは駆動できず、内蔵スピーカーに300Wを供給します。

**1:10モデル** — 1x10インチコンボの内蔵スピーカーシステムの定格は8Ωです。このモデルでは、8Ωスピーカーx1台または16Ωスピーカーx2台を追加で接続することが可能で、内蔵スピーカーには150Wを供給します。8Ωx1台または16Ωx2台の外部スピーカーを接続した場合、このアンプは300Wを内部スピーカーと外部スピーカーに均等に出力します。

**外部スピーカー** — 別個体のスピーカーを拡張用として接続する場合は、2番目のスピーカーアウトプットに接続します。パワードスピーカーを接続する場合は、マイクまたはラインレベルに設定されたDI(1+2アウトプット)を使用します(パワードスピーカーのモデルや仕様によっても異なります)。スピーカーとヘッドフォン以外のものの接続にスピーカーまたはヘッドフォンアウトプットは使用しないでください。

#### TWEETER LEVEL スイッチ

この3ポジションスイッチは、ツイーターのレベルを“OFF”(ジャズエレクトリックやアーチトップに使用する場合)、“-6dB”(ウォームでよりメロウなトーン)、フラット(高域のレスポンスが均等に広がる)で切り替えることができます。

#### HEADPHONE OUTPUT

1/4”(6.35mm)のTRS(tip-ring-sleeve)ヘッドフォンアウトプットジャックです。全ての一般的なヘッドフォンとIEMイヤープースをご使用いただけます。ヘッドホンやイヤホン等で音を聴くときや耳の近くで音源を鳴らすときには、常に音量にご注意ください。このアウトプットには、ヘッドホン用に最適化されたキャビネットエミュレーション回路を装備しているので、HEAD-

PHONESアウトプットにヘッドホンやイヤホン以外の機器を接続しないでください。ヘッドホンからの出力のみで演奏するには、スピーカージャックをリアパネルのSPEAKER OUTPUTから抜くだけです。ヘッドホンの性能や再生効率は大きく異なる可能性がありますので、ご購入前にアンプでお試しいただくことをお勧めいたします。

**MUTE FOOTSWITCH ジャック** ROSETTE®には、標準の2ボタンラッチングフットスイッチに対応する、1/4”(6.35mm)のTRS(tip-ring-sleeve)MUTE FOOTSWITCHジャックが装備されています。TipとSleeveがショートするとチャンネル1、RingがSleeveにショートするとチャンネル2がミュートされます。フロントパネルのLEDは、どのチャンネルがミュートされているかを表示します。フロントパネルのMUTEトグルスイッチは、リモートフットスイッチでコントロールする際には下側(PLAY)のポジションに設定してください。

**FX BYPASS FOOTSWITCH ジャック** 標準の1ボタンラッチングフットスイッチに対応した、1/4”(6.35mm)TS (tip-sleeve)EFFECT BYPASS FOOTSWITCHジャックを装備しています。TipとSleeveがショートすると、エフェクトループに接続している外部エフェクトプロセッサを含むエフェクトがキャンセル(またはミュート)されます。フロントパネルの赤色のFX BYPASS LEDは、エフェクトのON/OFFを表示し、バイパス/ミュート時に赤く点灯します。

**EFFECTS SEND & RETURN** 1/4”(6.35 mm)TS(tip-sleeve)ジャックのFX SENDとFX RETURNを備えています。FX SEND端子は各チャンネルのFX SENDコントロールからの信号を受け取り、内部エフェクトプロセッサに送られるのと同じ信号を出力します。FX RETURN端子は内部プロセッサのアウトプットセクションにインサートされ、RETURNレベル(ドライ/ウェットミックス)はフロントパネルのFX MASTERコントロールで調整することができます。内部プロセッサの代わりにアウトボードのエフェクトプロセッサを接続することができるパラレルループで、ラインレベルのエフェクトに特化したデザインになっていますが、他の多くの、ラインレベルではないプロセッサやエフェクトペダルでも使用できる、十分なSENDシグナルのレンジとゲインコントロール可能なRETURNステージを持ち合わせています。外部プロセッサの出力ミックスコントロールは100%ウェット(エフェクト信号のみでドライ信号がゼロ)の状態に設定して、ドライ/ウェットのミックスはフロントパネルのFX SENDとFX MASTERコントロールでアンプ側でコントロールしてください。

**AUX INPUT** ROSETTE®は1/4”(6.35mm)TRS(Tip-Ring-Sleeve)AUXインプットを備えており、MP3プレーヤー、iデバイスやラップトップからのLRステレオチャンネル出力を適切な値でアンプから出力します。AUXシグナルのインジェクション(インプット)ポイントはMASTER VOLUMEコントロールの直前に位置しており、音源の音量も楽器の音量とともにコントロールされることとなりますので、音源プレーヤー側で音量をコントロールして楽器と再生デバイスのレベルのバランスを取ってください。最高のパフォーマンスを得るには、1/8”(3.5mm)TRS-1/4”(6.5mm)TRSケーブルを使用する必要があります。このケーブルはデバイス間で最もよくマッチし、アンプが自動的に適切な状態で音源を出力するようにします。モノラル入力も自動的に最適化してアンプから出力しますが、バランスモノラル信号との互換性はありません。

**DIRECT OUTPUT(DI OUT)** Rosette独自の機能として、スタジオグレードのXLR(male)バランスダイレクトアウトプットを搭載しRosette独自の機能として、スタジオグレードのXLR(male)バランスダイレクトアウトプットを搭載しています。チャンネル1のみ、チャンネル2のみ、およびチャンネル1+2(エフェクトあり)のアウトプットがあり、バランスタイプのケーブルであれば約150m(500フィート)の長さでも問題なく使用することが可能なうえに、ファンタムパワープロテクトも搭載しています。これらの端子は、プロオーディオ基準の2番ピン=ホット、3番ピン=コールド、そして1番ピン=グラウンドという世界的に最も一般的なコンソールの配線規格となっています。

**DIRECT OUTPUT SOURCE スイッチ** このスイッチは、DIアウトプットがPRE-EQシグナルかPOST-EQシグナルのどちらをキャプチャーするかを各チャンネルごとに選択します。一般的には、PAシステムによる個々のチャンネルのレベルコントロールが可能な場合にはDI SOURCEセレクトスイッチをPRE-EQに設定することでPAエンジニアが信号をイコライジングし、会場のサウンドシステムと音響特性に合わせて必要に応じて処理を行うこととなります。アンプをマルチトラック・レコーディングで使用しているときやトラック中にEQが使用されている場合、またはPAシステムに音響機器を使用するのに十分な経験のあるオペレータがいない場合はPOST-EQシグナル・ルーティングを選択することができます。エフェクトが生成される前段にシグナルのテイクオフポイントがあるため、このアウトプットは常にプリエフェクトです(FX LOOPに接続されたエフェクトを含みます)。CH1+CH2アウトプットは、信号が結合される前にすでにイコライジングされているためPRE / POST EQスイッチはありませんが、内蔵エフェクトまたはFX LOOPに接続したエフェクトともにエフェクト信号が含まれます。



### **DIRECT OUTPUT LEVEL スイッチ**

このスイッチで、DIアウトからMIC(マイク)レベル(約-30dBu)またはLINEレベル(約+4dBu)の信号のどちらを出力するかを選択します。プロレベルのコンソールのほとんどがLINEレベルのシグナル処理に対応していますがその全てに対応しているわけではなく、入力レベルのオーバーロードを防ぐためにより低いMICレベルの信号が必要な場合があります。しかしながら、スタジオ用のレコーディングインターフェース(A/Dコンバーター)は、一般的にLINEレベルに対応しており(しばしばLINEレベルのみしか対応していない機種もあります)、パワードスピーカーにも同じことが言えます。

### **PIN 1 LIFT (DI OUTPUT) スイッチ**

このスイッチで、XLR DIアウトコネクタの1番ピンから、サーキットのグラウンド/アースを切り離します。バランスアウトは、1番ピンや、コンソールに信号を送る際のシールド接続には影響されません。1番ピンが常にコンソールのマスター・グラウンドバスに接続されていても、しばしば(建物のアース環境によって異なりますが)共通の接続があると小さな電流がグラウンド間を流れ、ハムノイズを発生させます。このような場合に送信側(アンプ側)のグラウンドをリフトさせることで、グラウンドの浮遊電流が信号にハムノイズを誘導しようとしても、シールド状態を保ちます。これを複雑にするのが大変高い(ラジオ)周波数で、グラウンドが“本当に”接地しているわけではないため、このネットワークには同じネットワーク内で2つのグラウンド・スペクトルを可能にする追加の技術が組み込まれており、RFI(無線周波数干渉)リジェクションが追加されています。一般的なルールとしては1番ピンをリフトして、もしノイズが出ればグラウンドへ接続して下さい。また注意しておかなければいけないのは、ノイズには他にも様々な原因があるということですが、このスイッチの切替によって、PAとアンプの間に発生するグラウンドループ(ノイズ)は多くの場合解決されるでしょう。

## トラブルシューティング

もしお使いのアンプが正しく動作しないとき、問題がアンプでない場合はよくありますが、しかし関連機材についての確に問題を見つけ出して解決するために、トラブルシューティングへのアプローチを慎重かつシステムチックに行う必要があります。信じるかどうかは別ですが、我々はこれらの症例を何度も見てきました。MUTEスイッチをPLAY(下)側にして、楽しんでチェックして行きましょう！

### 症状1

音が出ない

→電源LEDや、他のLEDは点灯していますか？

LEDが点灯していない場合: 次の順番で原因をチェックしてみてください:

1. 電源をチェックします(電源ケーブルに損傷が無い、ソケットにしっかり差さっているかを確認して下さい)
2. 誰かがアンプからケーブルを抜いていないか、またはあなたが見ていない内に電源をOFFにしているかを確認します(もしそうなら、ギタープレイヤーに文句を言って、電源をONにして演奏を開始して下さい)
3. もし問題を解決できない場合は、アンプが故障している可能性がありますので、お近くのMESA BOOGIE取扱い楽器店に相談して下さい

LEDが点灯している場合: 次の順番で原因をチェックしてみてください:

1. MUTEスイッチがONになっている(MUTEスイッチをOFFにします)
2. INPUTまたはMASTERコントロールの設定がゼロになっている(設定を上げます)
3. スピーカーケーブルまたはスピーカーが不良である(別の品質の高いスピーカーケーブルやスピーカーを試して下さい)
4. ピックアップまたは楽器用ケーブルが不良である(別の品質の高いピックアップまたは楽器用ケーブルを試して下さい)
5. アンプ本体が実際に不良である場合、お近くのMESA BOOGIE取扱い楽器店に相談して下さい

### 症状2

出力される音が歪んでいる

1. オンボードプリアンプに搭載されているプリアンプの電池が不良または消耗しているため音が歪んでいる(電池を交換して下さい)
2. 相対的なゲインの設定が高い(Clip LEDが点灯している)場合、Input Gainコントロールを下げてMaster Volumeコントロールを上げて下さい
3. システム内のケーブルが若干接触不良である(楽器用ケーブルやパッチケーブル、スピーカーケーブルプラグのネジが緩んでいる際に発生します)
4. スピーカー内部のスピーカーの動作不良(品質の高いスピーカーキャビネットを試すか、必要に応じてスピーカーを修理します)
5. アンプ本体が実際に不良である場合、お近くのMESA BOOGIE取扱い楽器店に相談して下さい

### 症状3

ポップノイズが発生する

1. 演奏中、特に1本の弦を弾くとポップノイズが発生する(弦とピックアップのポールピースの間隔が十分にあるかを中心に、使用するベースのセッティングをチェックして下さい)
2. ベースを演奏せずにただ持っているだけでポップノイズが発生する(乾燥した環境では、静電気によるポップノイズが発生することがあります。静電気を防止するには、帯電防止マットや加湿器を試してみてください)

## 症状4

低周波のハムノイズが発生する

1. 楽器用ケーブルまたは楽器内部の回路が不良である(アンプから楽器用ケーブルを抜きもしハムノイズが消えるようであれば、ノイズはアンプ外部からのものということになります。品質の高い楽器用ケーブルまたはベースを試してみてください)
2. 電源側の回路のアースが取れていない(回路や、アースピンをチェックします。どこに問題があるのか確認するために、必要であれば電気技術者に相談して下さい)
3. 外部の浮遊磁場がピックアップ(特にシングルピックアップ)に入り込む(1つのヒントとしては、ベースの位置によってハムノイズの大きさは変わります。理由としては大きなパワートランスが演奏する場所の近くにあることが考えられますが、他のアンプに近づいたときも発生するようであれば、それは電源からの浮遊磁場である可能性もあります)

## 症状5

高周波のヒスノイズが発生する

1. アンプから楽器用ケーブルを抜きもしハムノイズが消えるようであれば、ノイズはアンプ外部からのものということになります(楽器のアクティブ・プリアンプのトレブルが最大になっている、電池の不良または楽器のプリアンプの不良が考えられます)
2. ネオンライトのようなものが近くにあるときに、電波妨害(俗に言う"ホワイトノイズ")がピックアップの回路に発生することがあります(その場合は、ノイズが消えるか確かめるためにライトを消してみてください。もし消えたら、ライトの二次回路または真空管のアーク放電や、楽器のピックアップへの電波妨害が考えられます)
3. 電源側の回路のアースが取れていない(回路やアースピンをチェックします。どこに問題があるのか確認するために、必要であれば電気技術者に相談して下さい)
4. 静かな環境でツイーターの設定が最大になっている(特に低域のドライバーでツイーターの設定を上げるとツイーターの感度が非常に高くなりますので、設定を下げる必要があります)

## 症状6

PROTECT(プロテクト) LEDが点灯する

1. もしアンプが長い間プロテクト状態になっていない場合は、電源ケーブル以外のケーブルを全て抜いてから、スピーカーケーブルを接続してみてください。アンプがすぐプロテクト状態になるようであれば、1つの原因としてクロスオーバーの不良または破損が考えられますが、アンプへの過度の抵抗が生じると保護回路が正しく動作します(この可能性を除外するためには、他ブランドの高品質スピーカーキャビネットを試してみてください。もし他ブランドのスピーカーキャビネットを試してアンプが正しく動作するようであれば、お近くのMESA BOOGIE取扱い楽器店に相談して下さい。これは、誤ってデザインされたクロスオーバーを搭載した自作のスピーカーでよくある症例です。PWM方式の全てのアンプは、不良のクロスオーバー・タンク回路の無効エネルギーでさえも蓄積するほど、感度が高くなっています。)
2. 演奏中に音量を低めに抑えた際に、保護回路が働いてアンプの電源がOFFになる(スピーカーケーブルが断線している可能性がありますので、高品質なスピーカーケーブルを試してみてください)
3. 演奏中の音量が高い場合に、保護回路が働いてアンプの電源がOFFになる(アンプへの抵抗の合計が $4\Omega$ 以下または $2\Omega$ (インピーダンスセレクターが2オームの設定の場合)になっていないか確認します。複数のスピーカーキャビネットを使用した際の組み合わせ間違い、修理されたスピーカーキャビネットに貼られたステッカーの抵抗値間違い、または抵抗値の記載がない改造スピーカーや、ボイスコイルが温まる際にボイスコイルがショートするような不良のドライバー等が原因と考えられます)
4. 配線ミス、または延長ケーブルがワイヤーサイズを考慮すると長すぎる場合に、電源の電圧が危険なレベルまで低くなる(電気技術者またはMESA BOOGIE取扱い楽器店に相談して下さい)

## 開発チームからのアンプとCLASS D(クラスD)についてのディスカッション(質疑応答)

**質問：** このアンプはどのようにしてこんなに小さくまた軽量になっているのですか？

**回答：** このアンプには新しい技術が使われており、SMPS(スイッチモード・パワーサプライ)とCLASS D(クラスD)パワーアンプの両方がサイズと重量を小さくしています。このデザインは、現実世界においてずっと安定した信頼性の高いパフォーマンスが得られるよう十分にテストされ、慎重に実装されています。

**質問：** どのようにしてこの軽量なアンプがソリッドなサウンドを生み出すのですか？ 十分な低音を含むサウンドを生み出すためにはアンプは重くなくては行けないと聞いていました。

**回答：** 非リニアのスタイルで駆動させる際は(出力機器が十分または十分でなくても)、アウトプット段は、リニアの範囲でアウトプット機器が動作するように、抵抗の損失や"安全な動作エリア"の過度な保護、そして消えてしまう廃熱に対応する必要がもはやありません。つまり、よりパワーがあり、またより良い低域のコントロールが可能ということです。実際、プロオーディオの世界ではSMPSやCLASS Dは既に使用されています。特に大規模なツアー市場ではもう10年ぐらいは使われており、巨大なアリーナやスタジアムのサブウーファーが日夜働いています。実際のところ、我々のパワーアンプに使われている技術は、高い信頼性を持つツアー・プロオーディオの世界から得られているのです。

**質問：** どうやってこれらのアンプの信頼性をはかるのでしょうか？

**回答：** ROSETTE™アンプ計画の開発エンジニアは、アンプまたツアー・プロオーディオの世界の両方で、10年以上に渡って成功を収めてきているSMPSやCLASS Dの経験を持っています。また我々は、これらの新しいパワー・モジュールの開発を行っているヨーロッパの開発チームと密接に作業を行っており、それは広範な試験を含んだもので、研究室の内部に留まらず、日夜現実のステージで実際のミュージシャンとオーディエンスによってテストされています。

**質問：** どうしてパワーサプライがこのように小さく軽いのですか？

**回答：** SMPSは他のパワーサプライと似たようなものですが、違いは回線周波数のパワーサプライ(50Hzまたは60Hz)よりも高めの周波数(大体80kHz~100kHz)で動作している点です。動作する周波数が高いほど、パワーサプライのトランスのコアは小さくて済みます。パワーランスの重さの大部分はコアなので(またコアの周りに銅線が巻いてある)、コアを小さくすることは、コアに巻かなければならない銅のサイズや重さを小さくするのです。

**質問：** SMPSはどのように動作するのですか？

**回答：** あまり技術的にならないように説明すると、スイッチモード・パワーサプライはAC電源(50-60Hz)を取り込むもので、高電圧交流(HVDC)に整流します。このHVDCは保管するエネルギーとしてインプット・フィルター・キャパシターの中でフィルター、保存され、必要に応じてダイナミックロードに送られます。またこのHVDCは高電圧の100kHzにチョップ/スイッチされ、高周波交流電流(HVHFAC)、それはHVHFACを低電圧高周波交流電流(LVHFAC)に変換する高周波トランスを通じて供給されるのですが、LVHFACは整流、フィルターされて低電圧直流電流(LVDC)に行き、パワーアンプの回路が使用します。

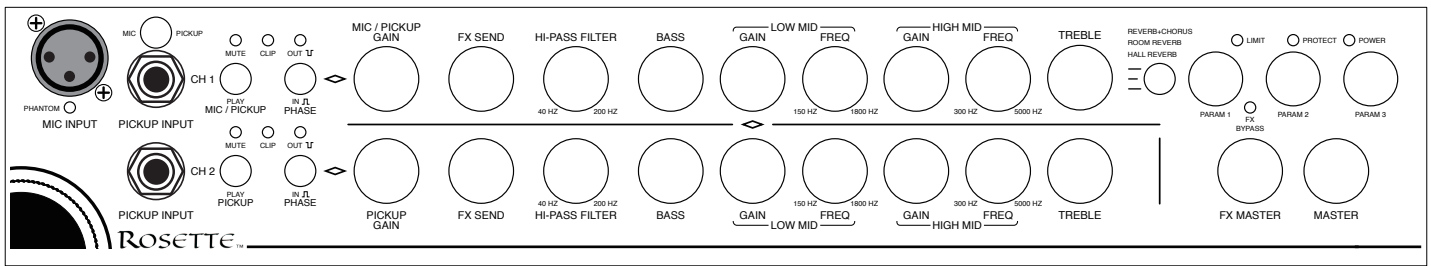
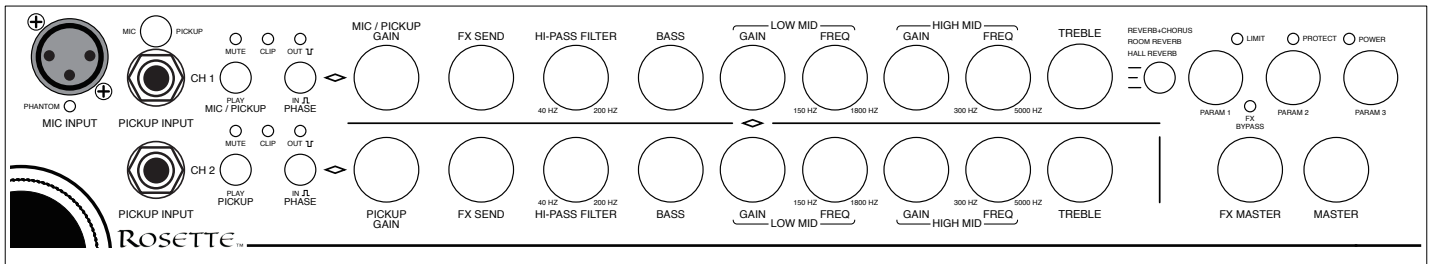
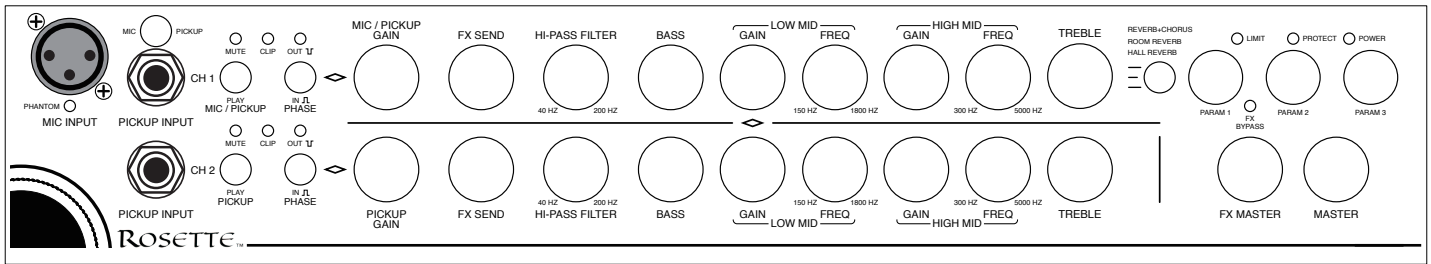
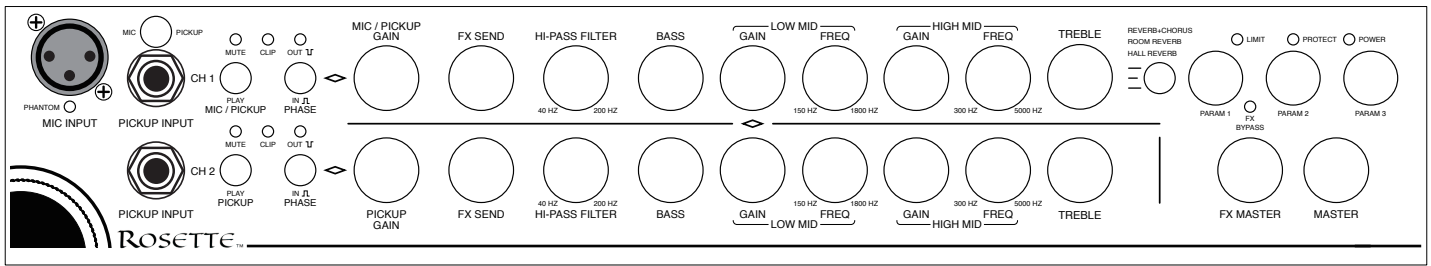
**質問：** 何故CLASS Dのパワーアンプはそのように小さくまた軽量なのですか？

**回答：** CLASS Dのアンプはアウトプット段を非リニアに動作します、つまり、スイッチング周波数が500kHzで出力機器が十分でも十分でなくてもスイッチします。この"カットオフ-サチュレーション"スイッチングは、無駄の多い"リニアレンジ"の動作を避けることで廃熱を最小限にし、また放熱がないため、大きくて重いアルミニウムのヒートシンクを必要としないのです。

**質問：** CLASS Dアンプはどのように動作するのですか？

**回答：** CLASS Dアンプでは、アナログオーディオ信号は信号を+5Vの従来のロジックレベルでパルス列はアナログオーディオ信号をCLASS Dアンプでは、アナログオーディオ信号は、+5Vの従来のロジックレベルにおけるパルス列のPWM(pulse width modulated)に変換されます(PWMデジタルオーディオレコーダーにおけるA/Dコンバーターに似ていますがより高い周波数です)。このPWMパルス列は、大きなソリッドステートのスイッチング・パワートランジスタ(非リニアで放熱を避ける)によって高電圧(そして高電流)にレベルシフトされ、結果としてハイレベルのPWM信号が高出力の"ローパス構造のフィルター"を通りオリジナルの信号を再統合しますが、PWM信号からスピーカーに送られるオーディオ信号はレベルシフト(増幅)されます。CLASS Dはデジタルでもアナログでもありませんが、両方のプラットフォームの性質を共有しています。(ご注意:これは非常にシンプルな記述であり、多くの重要な細かい点が省略されていますが基本的な動作の機能の説明としては正しいものです。このような専門性の高いオーディオの世界ではたくさんの非常にテクニカルな方法が使われており、それらが高いパフォーマンスや安定度、安全かつ信頼のおけるデザインに重要なのです)。

# USER SETTINGS





## TWIST-LIFT

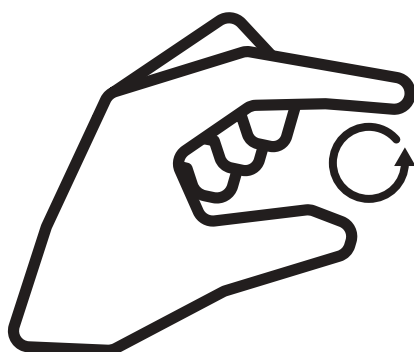
300 / TWO:EIGHT ROSETTE™には、ツイストリフトと呼ばれる革新的なティルトバック機能が搭載されています。ツイストリフトはキャビネットの傾きを段階的に調整して、サウンドのモニタリングに必要な正確なアングルをセットすることができます。

### TWIST-LIFTの調整について

ツイスト・リフトの調整は簡単で、キャビネットの底面のネジ式スタンドを反時計回りに回してアンプ  
ツイスト・リフトの調整は簡単で、キャビネットの底面のネジ式スタンドを反時計回りに回してアンプを上昇させるか、ネジ式スタンドを時計回りに回してROSETTE™コンボを運搬しやすいように格納位置に戻すだけです。

**注意：**使用しないときは、TWIST-LIFTを時計回りに完全に締め切ってください。

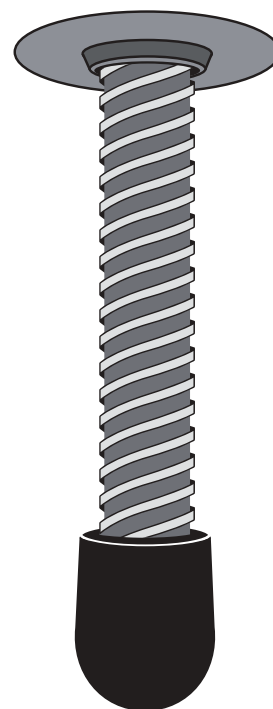
工具を使用してTWIST-LIFTを締め付けないでください。必ず手で締めてください。



左に回して上げることで  
アンプのアングルを高くします



右に回して  
アンプのアングルを低くします



# ROSETTE<sup>®</sup>

## *Technical Specifications*

### **Input Level & Impedance:**

¼" (6.35mm) Pickup Input	Instrument level (-20 to 0 dBu), 1M Ohm (unbalanced)
XLR Mic Input	Microphone level (-50 to -20 dBu), 3.5k Ohm (balanced)
¼" (6.35mm) Aux Input	Line level (+4 dBu), ~10k Ohm (stereo summed to mono)

### **Phantom Power:**

XLR Mic Input	12VDC (with 1.8k Ohm source resistors)
---------------	--

### **Equalization:**

Bass	+14dB/-14dB @ 100Hz [note 1]
Low Mid	+14dB/-14dB @ 150-1.8kHz (sweepable)
High Mid	+14dB/-14dB @ 300-5kHz (sweepable)
Treble	+11dB/-14dB @ 8kHz [note 1]

### **Filters:**

High Pass Filter	40Hz – 200Hz, 12dB/octave, Sallen Key alignment
------------------	---

### **Effects loop Level & Impedance:**

Effects Send	¼" (6.35mm) line level unbalanced (-10 to +4 dBu), <100 Ohms
Effects Return	¼" (6.35mm) line level unbalanced (-10 to +4 dBu), >50k Ohms

### **XLR Direct Outputs:**

Level	Mic level (-50 to -20 dBu) or line level (-10 to +4 dBu) selectable
Impedance	~1k Ohms, balanced
Signal Source	Channel 1 & 2: pre/post selectable, Channel 1+2 post
Ground	Pin 1 connect or lift, selectable. Phantom power protected

### **Amplifier:**

8 Ohm Load	150 Watts (RMS) at 1% THD
4 Ohm Load	300 Watts (RMS) at 1% THD
Frequency Response	40Hz – 20kHz (-3dB)

### **Power Requirements:**

Volts, Freq, Power	100-120/220-240 VAC, 50/60Hz, 250 W (auto-selecting voltage)
Fuses	No user replaceable fuses

### **Physical:**

#### **TWO:EIGHT**

Dimensions [note 2]	18"(457mm) wide x 14.75"(375mm) high x 12.25"(311mm) deep
Weight	Approx. 30 lbs (13.6 kg)

#### **ONE:TEN**

Dimensions [note 2]	18"(457mm) wide x 16.5"(419mm) high x 12.50"(318mm) deep
Weight	Approx. 28 lbs (12.7 kg)

### **Speaker System:**

Cabinet Impedance	TWO:EIGHT - 4 Ohms, ONE:TEN – 8 ohms
Low Frequency	TWO:EIGHT - 2 x 8" drivers, ONE:TEN – 1 x 10" neodymium magnet
High Frequency	1" silk composite dome, neodymium magnet
Tweeter Level	3 position switch: Off, -6dB and flat

[note 1]: measured approx. 1 octave from the knee

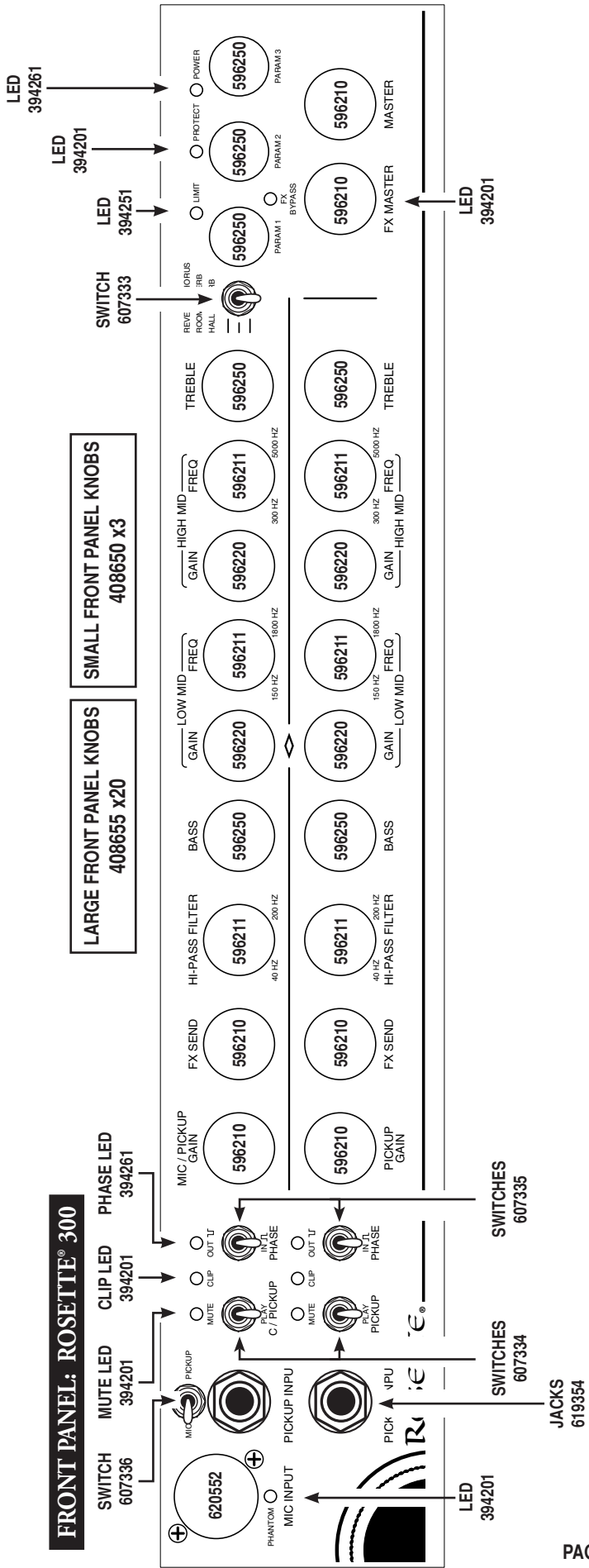
[note 2]: including feet and handle

商品改良のため、仕様や外観は予告なく変更されることがあります。

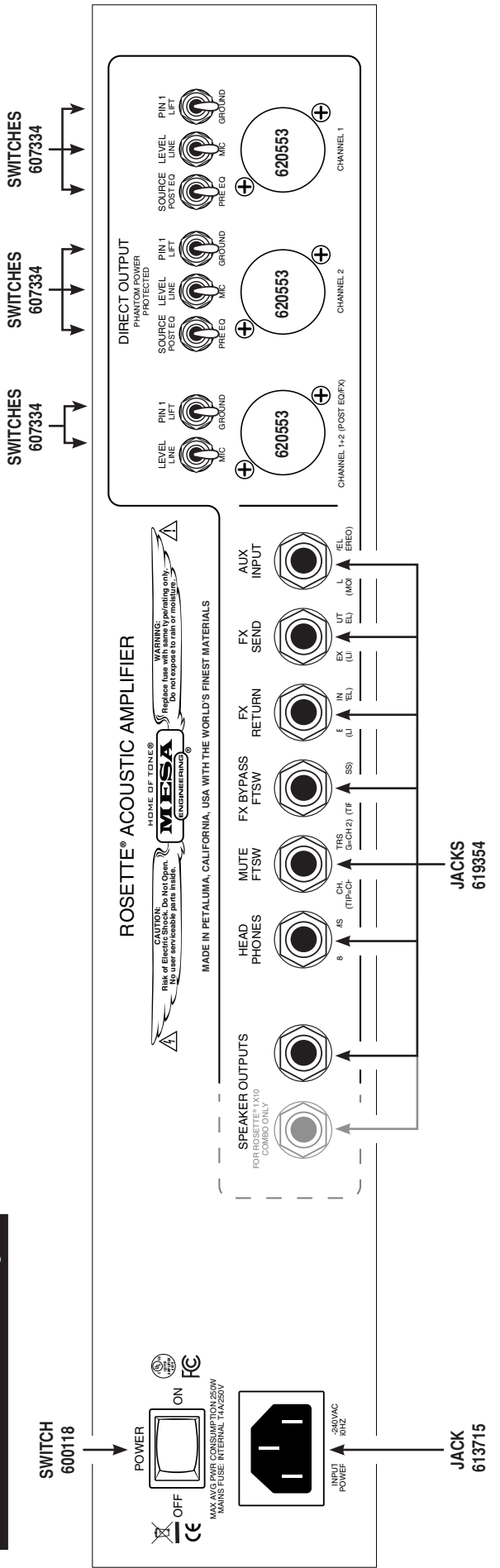




**FRONT PANEL: ROSETTE® 300**



**REAR PANEL: ROSETTE® 300**











## ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: [service.japan@gibson.com](mailto:service.japan@gibson.com)

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）